

ネットワーク



△富士南地区の歴史は市立南小の開校から



富士南

緑と自然にかこまれ
安全で文化の香り高さ
“きまりよしの里”

このコーナーでは、公民館単位に各地区の話題や人物を紹介します。あなたの地区でのちょっとしたこぼれ話、出来事、ご意見などありましたらご連絡ください。6月は田子浦、7月は富士駅南地区です。連絡先…市内永田町1-100 市広報広聴課 ☎51-0123 内線2822、締め切りは毎月15日です。

富士南地区は、富士市の西南端に位置し、富士川の河岸に沿った地区です。昭和五十三年、市立南小学校ができたのを契機に富士駅南地区の森島・宮下、田子浦地区の五貫島・西宮島・三四軒屋等十一町内が合併してできた地区です。昔は、富士川の河原で、ところどころに集落があったにすぎませんでした。古郡三代にわたるかりがね堤の築堤により耕作地となりました。

戦時中、五貫島一帯の地域は、旧陸軍の飛行場として接収されましたが、戦後、飛行場は解体、耕地整理が行われ、今の碁盤の目のような水田の広がる田園地帯に変りました。現在、この地区は、産業の後背地としてベッドタウン化し、市内でも一・二位を争う人口急増地区となっています。

地区の西側に広がる富士川の河原は、広大な自然を残し、田子の浦港のヘドロ埋立地は、富士川緑地公園として市民のレクリエーションの地となっています。



◀写真前列右から利徳さん、しげさんはる子さん、文雄さん、後列右から美穂さん、緑さん、文徳さん

おじやます
おします

なごやか家族

三四軒屋 齊藤さん一家



“生き神様”と呼んでもいいよ
うなすばらしいおばあちゃん
がいます。三四軒屋の齊藤しげ
さん九十九歳。
今回は、四世代家族の齊藤さ
ん一家におじゃましました。

齊藤さん一家は、世帯主の文雄

の七人家族です。
一家のスターは、なんといつ
も市内で四番目に長生きのしげ
おばあちゃん。耳は少し遠いけ
れども、つやのよい顔・張りのある
声は、とても百歳を目前にして
いるとは思えません。
長寿にあやかりたいとその秘訣
を聞けば、「規則正しい生活、毎
日の針仕事、そしてよくよしな
い」とのこと。

おばあちゃんの縫った
エプロンとおしめは、一
針一針ととてもいいねいに
縫ってあり、南地区の文
化祭に出品したときには
奪い合いになるほど人気
がありました。

また、ひ孫で大学生の
文徳君が下宿に帰るとき
は「まるで出征兵士を送
るよう」（妻・緑さん）と
いうほど情けに厚いおば
あちゃんでもあります。

「我が家の生き神様」と
いう言葉がぴったりのお
ばあちゃんですが、理想
的な老後を送れているそ
の影には、なごやかな家族
の雰囲気があることは言
うまでもありません。



富士市の通訳として嘉興市人民政府訪問団を迎えた

戴 旭東さん

原田2丁目 38歳



嘉興市と国際友好提携を進めるに当たって、一番の壁は言葉。今回、まさに友好の橋渡し役として活躍したのが戴さんです。上海で大学の日本語教授をしていた戴さんは、中国で日本人の四条佳子さんと結婚。一昨年の五月、

先に帰国していた奥さんのもとへ来日しました。現在は東京の商社で中国貿易の営業を担当し、単身赴任しています。戴さんを評して知人は「努力家」と言います。来日してから、「日本語をマスターするには実社会で学ぶのが一番。」と市民プールや飲食店で寸暇を惜しんで働きました。こうして、日本人の考え方や生活習慣を肌で感じたことが、わかりやすい通訳として生きています。「日本語は難しい。もつと苦労しなければだめですよ。」とあくまで謙虚。五月に訪中する市議会の調査団の通訳も勤めます。週末には、奥さんと一人息子の健君のもとへすつ飛んで帰ってくる優しいお父さんでもあります。

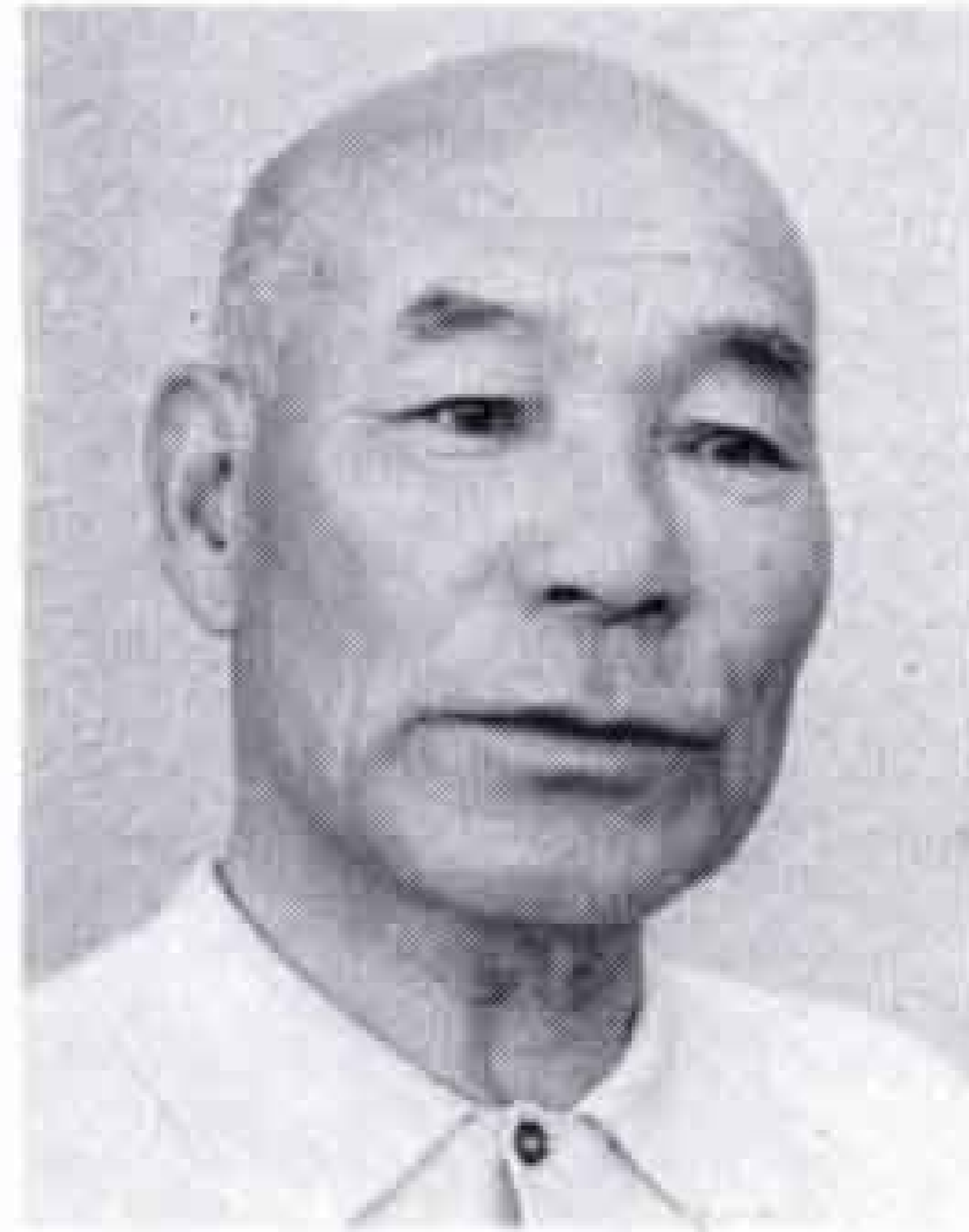


社交ダンスで若返り
ハプストシ社交ダンスクラブ



おまむすぶ
PILCHIKER(ピルチケーション)
中村のり子さん 宮下

「とても楽しい。雨が降ってもたくさん集まりますよ。」と代表の石持金次郎さん(六十七歳)。男性はポロシャツに黒の革靴、女性は銀色のハイヒールで決め、背筋がピンとのびて格好いい。今では、マンボ、シルバなど十を超えるレパートリーを持っています。練習は南公民館で週二回。五十七歳以上ならだれでも可です。



我がまちを語る

新しい明るいまち

「昔は、私の家からも海が荒れている日には、波が見えたものです。砂浜は広く、浜にはぐみの木があったのを覚えています」と靖国に住む中山定雄さん(六十九歳)は昔

中山定雄さん

靖国 (69歳)

をしのびます。「富士南地区は、駅南地区と田子浦地区の一部が一緒になってできた新しい地区なので合併当初は、うまくいくかどうか大変心配しました。しかし、両地区の人たちが、譲り合うところは譲り合い、お互い協力し合って非常にうまく溶け合うことができました。この地区は、他県の出身者も多いのですが、この人たちは故郷を離れているせいか、隣近所のつき合いを大切にし、地区活動も積極的に参加します。富士南地区を一言で表現すると「新しい明るく将来性豊かなまち」です」と語っていました。

あの人。この人。こんなこと



五十軒分のしめ飾りをしる
吉田則雄さん 三四軒屋

十五年前に家を建てたとき、お正月のしめ飾りを見よう見まねでつくり始めたのが、事の始まり。隣近所の分を頼まれるうちに、今では約五十軒分のしめ飾りをつくるようになりました。十一月に米の収穫が終わると、一カ月以上かけて作ります。よいわらでつくるのが重要で、稲の生育にも気を使います。

